



2018年4月29日～5月3日
 大連—西安—青島—
 煙台—大連

大連交通大学 国際文化交流学院 留学生 森野 昭

■ ホテル（4月29日）



ホテルにて歓談中の王、劉、石

午後には西安の空港にいたら、旅行社勤務の教え子の手配で社員が迎えに来て、ホテルまで車で案内してくれた。ホテルの宿舎で劉君（第二班班長、石君、王さん（初代班長）が待っていてくれた。

■ ホテルの前で12年ぶりの再会



先生 ようこそ
 代表者小马送给我花束

先生 おひさしぶり〜

哎呀，你是 KONA-chan



■二日目（4月30日 懐かしいキャンパス探訪）



ホテルの庭で撮影 邢さんが来た。しかし、胡さんが仕事で朝ハルビンに帰ったのが寂しい





高 李 陳 馬 邢 王 石 劉

昼食は小六湯包の店で



劉君は目の手術に成功して、少しだけハンサム・ボーイになったね！
邢さんは学生気分そのまま、一児の母とは思えない。石君と王さんも昔のままだね。

八頭身美人の陳さんは大人の雰囲気を漂わせている。馬さんはふくよかで奥さんらしくなった？ 李、高のお二人は、まだ少女の雰囲気が残っている。





雁塔校区大門

教学楼入口

教学楼



↑教学楼入り口が閉っていて中に入れず、教室は見られなかった。
森野老師が住んでいた专家楼
蔦の葉が生い茂っているのも十二年前と同じ。

思い出写真
服装を見ると、冬らしい。
专家楼の蔦の葉が枯れている。



ところで11年前、4年生になった学生たちが专家楼の前で撮った全員写真を私に送ってくれた。私はそのころ、江西師範大学にいた。まだ彼らが私を忘れないでいてくれたのが嬉しい。

応接室のテレビ、電子レンジも昔のまま。このソファに座って、皆といっしょに寿司、餃子パーティをしたあの頃が懐かしい。しかし、今は日本人教師が住んでいなくて、部屋は荒れていた。もし私が若かったら、もう一度、教師をしてこの宿舎に住みたい！



森野老師の元応接間

二日目夜（卒業十周年記念パーティ、教師と学生との交流会）



新旧の教務主任と一緒に。楊先生は後継者の潘先生に教務主任を譲られてはいるが、今も現役の教師。食事中の歓談で、教え子の近況報告を一人ずつ丁寧に聴いておられた。



王 胡老師 高 楊老師 李 陳 馬

教え子に囲まれて満面に笑みをたたえる楊老師 胡老師はおしとやかなお人柄で、しずかに微笑んでおられる。



■ 三日目（5月1日）以後大連へ戻る旅（意外な人と再会！）

5月1日朝、王さんが幼児をつれて、ホテルに
来た。私と劉君は、王さんと石君に見送られて、
ホテルから空港へと一緒に行った。



劉君は日本（東京在住）へ帰国の航空便に、
私は青島行航空機に乗った。劉君が航空券とホ
テルの予約をしてくれたので、安心して旅がで
きた。



石君が日照の張あかつきさんに連絡してくれたら、彼女がわざわざ会社を休んで、青島まで会い
に来てくれた。

あかつきさんは、大学時代には少女のようだったが、今は大人に成長していた。が、清楚な雰
囲気は今も変わらない。平日は銀行関係の仕事、週末は中学生に補修授業をしていて、とても忙し
いという。近いうちに、教師の免許を取得して中学校の教師を目指すそうだ。「男朋友はいるの？」
と聞いたら、笑って答えず（たぶんいるのだろう）。



物静かな表情を眺めていると、この12年間、彼女の人生はどのようなものだったのかと、心のうちにちょっと踏み込んでみたいところだが、それはおせっかいというものだろう。たしかなのは、私がもう教師ができないほど老いているということだ。昼食は海鮮料理と本場青島ビールだが、今日のビールはほろ苦かった。



教え子 18 人のクラスには、「張」を名乗る女学生が三人もいた。私は区別するために、日本名の愛称をつけた。張春梅をハル、張慧穎をケイ、張曉をアカツキと。皆に会いたかったが、会えたのは往復六時間の道のりをやって来てくれたアカツキさんだけ。それだけに私は嬉しかった。

西安で9人、そして張あかつきさんを加えて、10人の教え子に会えた。

■ むすび

こうして、青島から煙台へ、そこから船に乗って大連に戻り、五日間の旅を終えた。

私は五都市（西安・無錫・南昌・上海・昆明）の大学日本語科で日本語教師8年、大連交通大学で中国語の留学生4年、合計12年間も中国で生活した。本年でとうとう75歳になるので、今年限りで中国生活を終えて帰国しようと考えている。有意義な中国生活の最後を飾るように、今回、最初の教え子の皆さんが「卒業十周年記念パーティ」にお招きくださり、私はとても幸せだった！ 幹事役の劉君にはお世話になりました。また、ホテルで同室の石君とも心ゆくまで語り合えた。今回、残念ながらお会いできなかった8名の皆さんのことも、名前、顔、そして交流した数々の思い出を今でもよく覚えている。

我が人生最高の思い出をつくってくださった皆様、ありがとう。

（了）

